高校の保健科における「共通教養」としての「保健リテラシー」に関する一考察

石垣　信人

キーワード：保健科，教育内容，高等学校，保健リテラシー

A study on the new contents of health education in high school

Nobuto Ishigaki

Abstract

The purpose of this paper is to propose new contents of health education in high school. In order to achieve this purpose, this paper compares terms (words and phrases) in textbooks with those in newspapers. This paper chose three textbooks used for health education in high school and Asahi newspaper published in the past ten years. As a result, 39 terms in textbooks are not found in the newspaper. On the other hand, numerous terms are not used in textbooks. This paper finds that these numerous terms fall into three categories, and considers these categories form new contents of health education. In conclusion, this paper proposes three new contents as "Natural and Nuclear Disaster", "Mental Disorder", and "Medical Care and Social Security for the Elderly".

Key words：new contents of health education, health education in high school, health literacy

1.はじめに

「健康リテラシー」とは、学校健康教育で重要な概念の一つであり、WHO（世界保健機関）は、「健康を保持増進するように、情報を得て、理解し、利用するための個人の動機づけと能力を決定する認知的・社会的なスキル」と定義している。

和唐（2009）は、保健教育について、「すべての人が、生涯において成長期というある一定の時期に、一定の期間、学校という一定の場所で、学習指導要領に示された一定の内容を、それに基づく教科書を使用して、教えることに専門的な資格をもつ教師より集団的に学ぶものであり、そこには地域や職域など他の健康教育にはみられない特有の役割がみられる。それは、社会生活の基盤として国民が「共通教養」としての「健康リテラシー（健康についての識字能力）」の形成を保障するという役割である」と述べている。つまり、「共通教養」としての「健康リテラシー」は、学校以外の健康教育で育てることは困難であるため、現在の学校で実施されている教科「保健」で学ぶ健康についての「識字能力」の内実を精査することが必要が生じてくる。

一方、教育学では「リテラシー」の概念規定の試みがなされている。

例えば松下（2010）は、「リテラシー」概念をDeSeCo（Definition and Selection of Competencies）の３つのキー・コンピテンシーである①「道具（言語、シンボル・テクスト・知識・情報）を相互作用的に用いる」、②「異質な人々からなる集団で相互にかかわりあう」、③「自律的に行動する」能力から、①の一部を測定可能に具現化したものと述べている。

また、佐藤（2003）は、「リテラシー」を、社会的自立に必要な基礎教養を意味する「機能的リテラシー」と、再解釈・再活用・再構築などを意味する「批判的リテラシー」の二つに分類している。

このように、教育学などでは「リテラシー」に関する概念が規定されているものの、保健教育などでは、「リテラシー」の概念規定や具体的な中身の検討がほとんど研究されていない。なお、本研究では、学校の教科「保健」で学ぶ健康についての「共通教養」を「保健リテラシー」と呼ぶことにする。

さて、本研究を進めるにあたって、はじめに「健康リテラシー」と「保健リテラシー」の概念規定と枠組みを考案することとした（図１）。

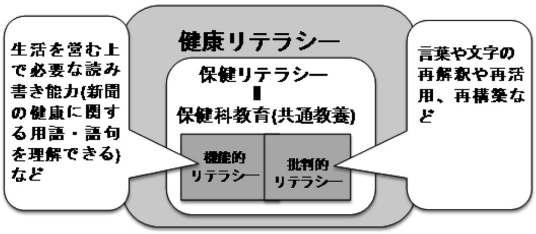

図1 「健康リテラシー」と「保健リテラシー」の概念関係図と枠組み

図１を説明すると、「保健リテラシー」とは、「健康リテラシー」の中に包括され、学校の教科「保健」で学ぶ健康についての「共通教養」を「保健リテラシー」とした。さらに、「保健リテラシー」には「機能的リテラシー」と「批判的リテラシー」という２つの概念を包括するものとした。また「機能的リテラシー」を「生活を営む上で必要な読み書き能力（保健では、新聞の健康に関する用語・語句を理解できる）」、「批判的リテラシー」を「言葉や文字の再解釈や再活用、再構築などの実践が重要なもの」と定義した。本研究では「機能的リテラシー」に着目して、分析を試みる。

2.目的

本研究の目的は、近年の学校健康教育において、その育成が重視されている「共通教養」としての「保健リテラシー」の内実を、「学校」と「社会」との関係から探索し、保

健教科書のキーワードから「新しい」領域・教育内容を提案することにある。また、現行（2007 年発行）の教科書と来年度（2013 年発行）から使用される教科書を比較し、相違点や問題点を明確にする。

3.方法

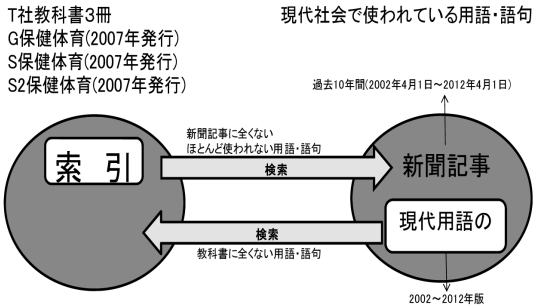

図2 「保健（機能的）リテラシー」内実の探索方法

現行の（2007 発行）高校で最も使用されている T 社の 3 冊の教科書（保健）の索引にある用語・語句を、A 新聞の過去 10 年間（2002 年 4 月 1 日～2012 年 4 月 1 日）の記事を検索し、用語・語句を新聞記事の件数に順位づけする作業を行う（方法 1）。また、『現代用語の基礎知識』の過去 11 年間（2002 年～2012 年版）から、現代社会で使われている「健康」に関する用語・語句を選定し、領域を振り分ける作業を行なう（方法 2）。さらに、来年度（平成 25 年度改訂）から使用する教科書も方法 1 で分析した。なお、用語・語句の選定には藤田の分類（表 1）を参考とした。

表1 藤田による高校の学習指導要領の内容構成

藤田の歴史的検討による内容構成	高校の学習指導要領の内容構成
①心身の機能と発達	現代社会と健康(精神の健康)
②環境と健康	社会生活と健康(環境と健康、環境と食品の保健)
③生活と健康	現代社会と健康(喫煙・飲酒・薬物) 生涯を通じる健康(生涯における健康)
④傷害の防止	現代社会と健康(交通安全、応急手当)
⑤疾病の予防	現代社会と健康(生活習慣病の予防、感染症の予防)
⑥職業と健康	社会生活と健康(労働と健康)
⑦集団の健康	生涯を通じる健康(保健・医療制度、医薬品、様々な保健活動や対策)

『保健の授業づくり入門』「保健科の学力と教育内容」参考に改変

4.結果及び考察

1）教科書の索引にある用語・語句の新聞記事の分析（方法 1）

A 新聞に教科書の索引にある用語・語句を検索した結果、「がん（癌）」が 50,381 件と最も件数が多く、続いて「介護」42,946 件、「結婚」40,124 件という結果となった（表 2）。「がん（癌）」が最も多いことから、「タール」や「飲酒」など、発がんの要因とつながる用語・語句が表 2 には見られる。また、4 位の「ごみ（ゴミ）」や、5 位の「水道」など、環境に関連する用語・語句が上位に多く見られることから、環境と健康に関連する問題が多いことが考えられる。

表2 A新聞の件数順位

順位	索引の語句・用語	件数
1	がん(癌)	50,381
2	介護	42,946
3	結婚	40,124
4	ごみ(ゴミ)	39,806
5	水道	36,290
6	エネルギー	33,711
7	タール	33,000
8	インフルエンザ	21,287
9	体力	19,941
10	交通事故	19,012
11	医療機関	16,805
12	保健所	16,439
13	出産	15,450
14	リサイクル	14,865
15	ストレス	14,711
16	飲酒	14,344
17	骨折	13,833
18	NGO(非政府組織)	13,739
19	医療費	13,701
20	下水道	12,763

※全430個の用語・語句の中の上位20位

また、過去 10 年間に全く A 新聞に登場しない用語・語句が 19 語も存在した。その内訳は、交通安全・応急手当の教育内容では、「パッシブセイフティ」、「アクティブセイフティ」、「不安全状態」、「不安全行動」、「過失傷害致死罪」、「主体要因」の 6 語。精神の健康の教育内容には、「一次的欲求」、「二次的欲求」、「適応機制」、「同一化（欲求）」、「背骨ほぐし運動」の 5 語。生涯における健康の教育内容には、「性機能の成熟」の 1 語。環境の健康、環境と食品の健康には、「危害分析重要管理点」の 1 語。喫煙・

飲酒・薬物の教育内容には、「シアン化物」、「有害反応」、「医薬品・医療機器等安全性情報報告制度」の３語。労働と健康の教育内容には、「トータル・ヘルスプロモーション・プラン」の１語。感染症の予防の教育内容には、「輸入感染病」の１語。様々な保健活動の対策の教育内容には、「ジェネーブ条約」の１語、という結果となった（表３）。

表3　藤田の内容構成別に見た10年間A新聞に全く登場しない用語・語句

交通安全・応急手当	環境と健康、環境と食品の健康
・パッシブセイフティ ・アクティブセイフティ	・危害分析重要管理点 （HACCPはある）
・不安全状態	喫煙・飲酒・薬物
・不安全行動	・シアン化物
・過失傷害致死罪	・有害反応
・主体要因 精神の健康	・医薬品・医療機器等 安全性情報報告制度
・一次的欲求	労働と健康
・二次的欲求 ・適応機制	・トータル・ヘルス プロモーション・プラン
・同一化（欲求）	感染症の予防
・背骨ほぐし運動	・輸入感染病
生涯における健康	様々な保健活動の対策
・性機能の成熟	・ジェネーブ条約

教科書の索引にある用語・語句をＡ新聞の過去 10 年間分に検索すると、大半の用語・語句が 10 年間で新聞記事に登場しているが、その一方で、19 語が 10 年間全く新聞に登場していない。10 年間使われていない用語・語句を教科書に登場していることは、今後、用語・語句の再検討をする必要性があると考える。

２）『現代用語の基礎知識』にある「健康」に関する用語・語句の分析　（方法２）

２）－１ 現在の教科書にない用語・語句

『現代用語の基礎知識』の 11 年分から分析すると、下記のような教科書で取り上げられている領域から教材づくりの際にヒントとなるキーワードが多数抽出できた。（カッコの中の数字は、過去 11 年で何回登場したかを示す）

・心身の健康と発達－現代社会と健康
（精神の健康）

うつ病(大うつ病)(11)、ADHD(11)、自閉症(9)、過呼吸症候群(8)、病的賭博(パチンコ依存症)(6)、産後うつ(4)など

・環境と健康－社会生活と健康
（環境と健康）

再生可能エネルギー(11)、漂着ごみ(6)、低炭素社会(4)、リサイクル法(3)、汚染がれき(1) 、レジ袋ゼロ運動(1)、など

・環境と健康 - 社会生活と健康
（環境と食品の保健）

食料自給率(11)、放射線照射食品(10)、JAS 法(9)、消味期限(8)、特定保健食品(2)、食品ニセ表示問題(2)、放射能物質の暫定規制値(1)など

・生活と健康 - 現代社会と健康
（喫煙・飲酒・薬物）

ノンアルコール(10)タスポ(4)、サード・ハンド・スモーク(3)、電子たばこ(1)、禁煙ガム(1)、ニコチンパッチ(1)、など

・生活と健康 - 生活を通じる健康
（生涯における健康）

緊急避妊法(11)、性同一性障害(11)、男性不妊(11)、出生前診断(11)、不育症(11)、同性愛(8)、マタニティマーク(5)、産後うつ(1)、母子健康手帳から親子健康手帳へ(1)など

・傷害の防止 - 現代社会と健康
（交通安全・応急手当）

交通事故発生マップ(8)、飲酒運転厳罰(5)、生活道路(5)、猛暑日(5)、自転車レーン(自転車専用通行帯)(4)など

・疾病の予防 - 現代社会と健康
（生活習慣病の予防）

平均健康寿命(HLE)(11)、BMI(11)、中性脂肪(11)、アルツハイマー病(11)血糖値(9)、脂質異常症(5)、特定保健食品(2)など

・疾病の予防 - 現代社会と健康
（感染症の予防）

人畜共通感染症(9)、ノロウイルス(7)、手足口病(6)、成人 T 細胞白血病(4)、新型インフルエンザ(4)、はしか(4)など

・職業生活と健康 - 社会生活と健康
（労働と健康）

失業率(11)、ワークシェアリング(11)、男女雇用機会均等法(11)、ワーキング・プア(6)、ハウジングプア(3)派遣労働者の労災(1)、など

・集団の健康 - 生涯を通じる健康
（保険制度・医療制度）

代理出産(11)、安楽死(11)、退職者医療制度(7)、渡航移植(渡航移植)(6)、後期高齢者医療制度(6)、医師不足(5)、子どもの臓器移植(1)、15 歳未満で初の脳死判定(1)など

・集団の健康－生涯を通じる健康
（医薬品と健康）

漢方薬による腎障害(6)、一般用医薬品のリスク分類(5)子宮頸がん予防ワクチン(4)、お薬手帳(1)、など

・集団の健康－生涯を通じる健康
（様々な保健活動や対策）

ドメスティック・バイオレンス（DV）(11)、生活保護法(11)、福祉車両(11)、児童虐待(10)、障害者福祉の法律(2)、東日本大震災と子ども(2)など

２）- 1 新しい領域・教育内容の提案

『現代用語の基礎知識』の 11 年分から分析すると、３領域に「健康」に関する用語・語句が生成され、新たに見いだされた。ここに含まれた用語・語句は教材づくりの際のキーワードとなる。

・傷害の防止 - 現代社会と健康
（事故・災害の防止）

津波(8)、原子力(11)、放射能(11)、半減期(11)、臨界事故(11)、台風(熱帯低気圧)(11)、ダウンバースト(11)、日本の原子力発電所(10)、落雪害(5)、東日本大震災(1)、除染(1)、放射線(1)、原発震災(1)

・疾病の予防 - 現代社会と健康
（病気と健康）

免疫療法(11)、卵巣がん(11)、前立腺がん(11)、急性白血病(11)、甲状腺がん(11)、エコノミークラス症候群(11)

・集団の健康 - 生涯を通じる健康
（高齢社会と健康）

公的年金への加入義務(11)、公的年金の加入制度(11)、国民年金基金(11)、交通バリアフリー法(11)、ハートビル法(10)、老年学(10)、老後(8)、年金(8)、1 人 1 年金(8)、生命保険(7)、老老介護(6)、遠距離介護(5)、認認介護(4)、認知症サポーター(3)大介護時代(2)、買い物難民(2)

新領域の第 1 は、「傷害の防止 - 現代社会と健康（事故・災害の防止）」である。この

教育内容として、自然災害の対応及び二次災害に関連するものである。「台風」や「津波」、それに伴う二次災害で起こりうる「原発震災」や「臨界事故」は、現在の日本の健康問題で深刻な問題である。現行（2007年発行）の教科書では、この「原発」に関連する「放射能」や「被爆」は取り上げられておらず、今後必要で重要な領域と教育内容である。

新領域の第2は、「疾病の予防 - 現代社会と健康（病気と健康）」である。現行（2007年発行）の教科書では、「がん」に関する内容を多く取り扱われている。しかし、そのすべてが「大腸がん」や「肺がん」などの生活習慣病に関連する内容となっている。そのため、生活習慣も大きく関連するが、性別特有の「前立腺がん」や「卵巣がん」などは扱われていない。また、「甲状腺がん」は、「傷害の防止 - 現代社会と健康（事故・災害の防止）」に取り上げた「放射能」と深く関連するため、その教育内容に関わる重要な語句となる可能性があると考える（過去の教科書には「放射能」に関連する教育内容は含まれていた）。また、その他にも、旅行や長時間の車や飛行機の移動など、子供から高齢者まで発症する危険がある疾病である「エコノミークラス症候群」も教科書で取り上げる必要性を持つと考える。

新領域の第3は、「集団の健康 - 生涯を通じる健康（高齢社会と健康）」である。現行（2007年発行）の教科書では、「年金」などの制度は扱われておらず、「公的年金への加入義務」、「公的年金の加入制度」、「国民年金基金」などの用語・語句も追加する必要性があると考えられる。また、「認知症」患者を介護している人もまた「認知症」となっているケースが存在し、そのようなケースの「認認介護」や、「大介護時代」など、高齢社会である日本の現状から、高齢者に関連する「健康」についてさらに取り上げる必要性があると考えられる。

3）来年度（2013年発行）から使用される教科書の「保健（機能的）リテラシー」に関する分析

来年度（2013年発行）の高校で使用される新しい教科書2冊を対象とし、索引にある用語・語句を、A新聞の過去10年分（2002年4月1日～2012年4月1日）で検索した（方法1と同じ）。

「情報」が236,230件と最も件数が多く、続いて「支援」207,429件、「施設」191,635件という結果となった（表4）。

表4　A新聞記事の件数順位（来年度（2013年発行）から使用される教科書）

順位	用語・語句	件数
1	情報	236,230
2	支援	207,429
3	施設	191,635
4	病院	137,926
5	脳	54,941
6	高齢者	52,094
7	がん(癌)	50,381
8	介護	42,946
9	結婚	40,124
10	ごみ(ゴミ)	39,806
11	廃棄物	22,802
12	自殺	21,896
13	交通事故	19,012
14	医療機関	16,805
15	保健所	16,439
16	コミュニケーション	16,330
17	温暖化	15,982
18	ウイルス	15,805
19	出産	15,450
20	リサイクル	14,865

また、10年間A新聞に登場しない用語・語句が39語と現行（2007年発行）の教科書よりも多く存在した。その内訳は、交通安全・応急手当の教育内容では、「アクティブセイフティ」、「パッシブセイフティ」、「不安全行動」、「不安全状態」、「車両要因」、「主体要因（交通事故）」、「環境要因（交通事故）」、「スピードハンプ」、「行政上の責任（交通事故）」、「若者特有の心理」、「人身損害額」、「物

的損害額」の 12 語。感染症の予防の教育内容では、「感受性者対策」、「感染経路対策」、「環境衛生活動」の 3 語。喫煙・禁酒・薬物の教育内容では、「慢性影響（喫煙）」、「急性影響（喫煙）」、「呼出煙」、「医薬品・医療機器等安全性情報報告制度」の 4 語。保健・医療制度の教育内容では、「国民階保険」の 1 語。精神の健康の教育内容では、「一次的欲求」、「二次的欲求」、「適応機制」、「同一化（欲求）」、「自我欲求」、「心理的欲求」、「背骨ほぐし運動」の 7 語。様々な保健活動の対策の教育内容では、「健康の定義」、「主体要因（健康の成り立ち）」、「環境要因（健康の成り立ち）」、「健康づくりのための休養指針」、「局所疲労」、「第一次国民健康づくり対策」、「第二次国民健康づくり対策」、「UNIFPA」の 8 語。環境と食品の健康の教育内容では、「3・1・2・弁当法」の 1 語。労働と健康の教育内容では、「VDT 障害」、「トータル・ヘルス・プロモーション」の 2 語、という結果となった（表５）。

表５　藤田の内容構成別に見た10年間A新聞に登場しない用語・語句
（来年度（2013年発行）から使用される教科書）

交通安全・応急手当	精神の健康
・パッシブセイフティ	・一次的欲求
・アクティブセイフティ	・二次的欲求
・不安全行動	・適応機制
・不安全状態	・同一化（欲求）
・車両要因	・自我欲求
・主体要因（交通事故）	・心理的欲求
・環境要因（交通事故）	・背骨ほぐし運動
・スピードハンプ	様々な保健活動の対策
・行政上の責任（交通事故）	・健康の定義
・若者特有の心理	・主体要因（健康の成り立ち）
・人身損害額	・環境要因（健康の成り立ち）
・物的損失額	・健康づくりのための休養指針
感染症の予防	・局所疲労
・感受性者対策	・第一次国民健康づくり対策
・感染経路対策	・第二次国民健康づくり対策
・環境衛生活動	・UNIFPA
喫煙・飲酒・薬物	環境と食品の健康
・慢性影響（喫煙）	・3・1・2・弁当法
・急性影響（喫煙）	労働と健康
・呼出煙	・VDT障害
・医薬品・医療機器等安全性情報報告制度	・トータル・ヘルスプロモーション・プラン
保健・医療制度	
・国民階保険	

４）現行（2007年発行）の教科書と来年度（2013）から使用される教科書の比較に関する考察

現行（2007 年発行）の教科書と来年度（2013）から使用される教科書の目次から、教科書の内容を比較し、教科書の相違点を明らかにする（表）。

まず、「1 単元　現代社会と健康」では、「食事と健康」と「運動と健康」「休養と健康」「現代の感染症」がこの単元に新たに新設された。次に「２単元 生涯を通じる健康」では、旧教科書では、「１単元　現代社会と健康」で学ばせていた教育内容である「３．さまざまな保健活動や対策」と「８．医薬品の健康」が「２単元 生涯を通じる健康」に移動された。

最後に「３単元 社会生活と健康」の目次を比較する。平成 19 年度改訂の教科書の「２．水質汚濁と健康」と「３．土壌汚染と健康」が新教科書では「２．水質汚濁・土壌汚染と健康」としてまとめられた。

現行（2007 年発行）の教科書では「１単元 現代社会と健康」で学ばせている教育内容が、平成 25 年度改訂の教科書では「２単元 生涯を通じる健康」で学ばせることについて、どの単元がどの教育内容で学ぶものであるかが曖昧である。藤田（2009）も、高校の内容構成に関して、「「１単元 現代社会と健康」領域に示されている５項目（①健康の考え方、②健康の保持増進と疾病の予防、③、精神の健康、④交通安全、⑤応急手当）も、何ゆえこれらが「現代社会と健康」という概念でくくれるのか理解に苦しむ」と述べるように、どの教育内容をどの単元で学ばせるかという確立した概念はないようである。

４.おわりに

本研究の「保健（機能的）リテラシー」に関する調査により、『現代用語の基礎知識』から選定した用語・語句から「新しい」領域・教育内容を提案可能なのかを模索した。その結果「自然災害」や「原発震災」に関する健康問題、疾病や心の病気、高齢者制度などが、高校の今後の教科「保健」の教育内容として、提案可能と考えられる。

表６ 新旧教科書の内容構成の比較

新G保健体育(平成25年度改訂)	新S保健体育(平成25年度改訂)
1単元 現代社会と健康	
1. 私たちの健康のすがた	1. 健康の考え方と成り立ち
2. 健康のとらえ方	2. 私たちの健康のすがた
3. 健康と意思決定・行動選択	3. 健康に関する意思決定・行動選択と環境づくり
4. 健康に関する環境づくり	
5. 生活習慣病とその予防	4. 生活習慣病とその予防
6. 食事と健康（新設）	5. 食事と健康（新設）
7. 運動と健康（新設）	6. 運動・休養と健康（新設）
8. 休養と健康（新設）	
9. 喫煙と健康	7. 喫煙と健康
10. 飲酒と健康	8. 飲酒と健康
11. 薬物乱用と健康	9. 薬物乱用と健康
12. 現代の感染症	10. 感染症とその予防
13. 感染症の予防	11. 性感染症・エイズとその予防
14. 性感染症・エイズとその予防	
15. 欲求と適応機制	12. 欲求と適応機制
16. 心身の相関とストレス	13. 心身の相関とストレス
17. ストレスへの対処	14. 心の健康のために
18. 心の健康と自己実現	
19. 交通事故の現状と要因	15. 交通事故の現状と要因
20. 交通社会における運転者の資質と責任	16. 交通安全を防ぐために
21. 安全な交通社会づくり	
22. 応急手当の意義とその基本	17. 応急手当の意義とその基本
23. 心肺蘇生法	18. 日常的な応急手当
24. 日常的な応急手当	19. 心肺蘇生法の原理とおこない方
2単元 生涯を通じる健康	
1. 思春期と健康	1. 思春期と健康
2. 性意識と性行動の選択	2. 性への関心・欲求と性行動
3. 結婚生活と健康	3. 妊娠・出産と健康
4. 妊娠・出産と健康	4. 避妊法と人工妊娠中絶
5. 家族計画と人工妊娠中絶	5. 結婚生活と健康
6. 加齢と健康	6. 中高年期と結婚
7. 高齢者のための社会的取り組み	
8. 保険制度とその活動	8. 医療サービスとその活用
9. 医療制度とその活動	9. 保健サービスとその活用
10. 医薬品と健康（1単元から移動）	7. 医薬品とその活用（1単元から移動）
11. さまざまな保健活動や対策（1単元から移動）	10. さまざまな保健活動や対策（1単元から移動）
3単元 社会生活と健康	
1. 大気汚染と健康	1.大気汚染と健康
2. 水質汚濁・土壌汚染と健康	2.水質汚濁、土壌汚染と健康
3. 健康被害の防止と環境対策	3.環境汚染を防ぐ取り組み
4. 環境衛生活動のしくみと働き	4.ごみの処理と上下水道の整備
5. 食品衛生活動のしくみと働き	5.食品の安全を守る活動
6. 食品と環境の保健と私たち	
7. 働くことと健康	6.働くことと健康
8. 労働災害と健康	
9. 健康的な職業生活	

現行の教科書(平成19年度発行)
1単元 現代社会と健康
1. 私たちの健康のすがた
2. 健康のとらえ方
3. さまざまな保健活動や対策
4. 生活習慣病と日常の生活行動
5. 喫煙と健康
6. 飲酒と健康
7. 薬物乱用と健康
8. 医薬品と健康
9. 感染症とその予防
10. エイズとその予防
11. 健康にかかわる意思決定・行動選択
12. 意思決定・行動選択に必要なもの
13. 欲求と適応機制
14. 心身の相関とストレス
15. ストレスへの対処
16. 自己実現
17. 交通事故の現状と要因
18. 交通社会における運転者と資質と責任
19. 安全な交通社会づくり
20. 応急手当の意義とその基本
21. 心肺蘇生法
22. 日常的な応急手当
2単元 生涯を通じる健康
1. 思春期と健康
2. 性意識と性行動の選択
3. 結婚生活と健康
4. 妊娠・出産と健康
5. 家族計画と人工妊娠中絶
6. 加齢と健康
7. 高齢者のための社会的とりくみ
8. 保険制度と保健サービスの活動
9. 医療制度と医療費
10. 医療機関と医療サービス
3単元 社会生活と健康
1. 大気汚染と健康
2. 水質汚濁と健康
3. 土壌汚染と健康
4. 健康被害の防止と環境対策
5. 環境衛生活動のしくみと働き
6. 食品衛生活動のしくみと働き
7. 食品と環境の保健と私たち
8. 働くことと健康
9. 労働災害・職業病と健康
10. 健康的な職業生活

また、教科で使用されている用語・語句に関しては社会で使用されることがほとんどないことから更新・再検討が常に必要であると考えられる。

参考文献

松下佳代編著：＜新しい能力＞は教育を変えるか　学力・リテラシー・キー・コンピテンシー,2010

佐藤学：「リテラシーの概念とその再定義」，教育学研究第 70 巻,第 3 号,P2-11,2003

森昭三,和唐正勝編著：新版保健の授業づくり入門,大修館書店,2002

WHO（世界保健機関） ホームページ URL:http://www.who.int/kobe_centre/ja/